



青葉城跡より仙台市を望む



環境科学研究科

Graduate School of Environmental Studies



Activity Report 2005

ごあいさつ

環境科学の創成を目指して東北大学大学院環境科学研究科が設立されてからすでに3年近くになります。もし、それにもかかわらず既存部局にあっては成し得なかったような、新たな教育・研究が行われていないとすれば、研究科の設立は単なる「看板の書換え」との誹りを免れないであります。また、たとえ内部事情を縷々説明して世間の御理解を得たとしても、後世からの批判は免れないであります。

個人的な経験によれば、自分にとって新たな分野の研究を開始し、自分のオリジナリティが世界的に認められるようになるまでには最低でも5年がかかります。したがって、現時点では当研究科の環境科学の研究成果は決して多大なものではないと思います。また、既存の研究アクティビティを全て放捨したのでは教育・研究レベルの維持も、また、それを基にした教育・研究の新たな展開も望めません。しかしそうであっても、現時点において、環境科学に関する新たな教育・研究がなんら芽吹いていないとすれば、我々の怠慢であると言わざるを得ません。

本年度は研究科と致しましては、科学技術振興調整費による産官学共同プロジェクト「地圏環境インフォマティクスのシステム開発と全国展開」、ならびに、同じく科学技術振興調整費による「高度環境政策・技術マネジメント人材養成ユニット」を新たにスタートさせております。本アクティビティレポートにはこれら研究科全体としての活動のほか各研究室におけるこの1年の活動をまとめました。厳しい御批判を賜れば幸甚です。



東北大学大学院 環境科学研究科長

新妻弘明